

アウトバウンド25ブロッキングとは

「Outbound Port 25 Blocking (アウトバウンド25ブロッキング)」とは、各インターネットサービスプロバイダーによる、悪意あるユーザーの迷惑メール送信や、特定のウイルスに感染したPCからウイルスメールが送信されることなどを防止するために、プロバイダー側で許可した特定のサーバー以外の、外部のコンピュータからの25番ポートへの送信をブロックするという対策方法です。

2006年頃から徐々に導入されはじめ、実施対象となるユーザーが増えてきていますが、プロバイダーからの通知が不十分だったり、見落とししていたりで、導入に気がついていない方がまだ多く見受けられます。

以下は、その仕組みと対応方法の概略となります。

<はじめに>

インターネットに接続されたコンピュータには、IPアドレスと呼ばれる番号が割り振られ、そのIPアドレスで各コンピュータを識別しています。

また、インターネットには複数の機能があり、用途によって決められたポート番号という数字を指定して使用しています。

こうしてIPアドレスとポート番号を組み合わせることで、どのコンピュータのどの機能を使いたいのが判断されていますが、

普段ブラウザやメールソフトを使用するのに、これらの設定が必要となることはほとんどありません。

<仕組みについて>

通常ではメール送信の際に、送信メールサーバ(SMTPサーバ)のポート番号として「25」番を指定します。

先の説明のとおり、25番ポートを指定することでメール送信機能が識別されます。

しかし、近年インターネットでの迷惑メールの急増により、誰でも利用できる25番ポートを規制する傾向にあります。

ネットワークの境界で25番ポートによる外部メールサーバーへの通信を遮断することで、悪意あるユーザーのコンピュータが外部のメールサーバーを利用して迷惑メールなどを送信することを防ぎます。

これが、各プロバイダーが行っている「Outbound Port25 Blocking」の具体的な内容です。

<対応方法>

特定の条件下においてメールの送信を不可としますが、外部サーバーへの通信を遮断するだけなので、プロバイダーのネットワーク内にあるメールサーバーへの通信は可能です。そのためプロバイダーのメールサーバーを利用した通常のメール送受信は影響を受けることはありません。

「Outbound Port25 Blocking」実施後に、メールが送れなくなってしまうような影響を受けた場合、プロバイダーのメールサーバーを利用した送信方法に設定変更して対応します。
※OBP25B 対応手順書「OBP25B 未対応サーバーの場合」をご参照ください。

サーバーによっては、ポート番号を変更する対応方法があります。
25 番ポート以外のメール送信用ポートが正規ユーザー向けに提供されています。それが 25 番ポートのかわりに「Submission ポート」と呼ばれる 587 番ポートを使うという方法です。

また、Submission ポートの提供には、送信時に正規ユーザーかどうかの認証を行なう「SMTP Auth」とセットで実施され、誰でも利用できる状態が回避されています。そのため、587 ポートの利用の際には SMTP サーバーの認証が必要になっています。
※OBP25B 対応手順書「OBP25B 対応サーバーの場合」をご参照ください。

<最後に>

「Outbound Port25 Blocking」実施状況は、プロバイダーによって異なります。設定情報などの詳細は加入されているプロバイダーにお問い合わせください。対応後も不都合が生じる場合や問題が解決されない場合は、弊社までご相談ください。

株式会社シーズ

TEL : 075-326-1240

MAIL : info@seeds-std.co.jp